

第19回 千葉市ゆうあいピック

僕達、淑徳大学ボランティアセンター所属の4名は、平成23年5月18日（水）に、「第14回 千葉市ゆうあいピック」の「水泳競技」のボランティア役員として参加させていただきました。

千葉市ハーモニープラザ内の水浴訓練室にて、午前9時頃～午後1時頃まで活動をしました。お手伝いさせていただいた仕事は、以下の通りです。

- ①競技会場のセッティング（長机、放送機具等）及び後片付け
- ②水泳競技関係者の受付及び関係者の会場への誘導
- ③水泳競技中のタイムをストップウォッチで計測
- ④閉会式のセッティング及び後片付け等

どれもやりがいのある仕事ばかりでしたが、重要なタイムの計測の仕事をしていただけたことは光栄でした。少しのタイムの狂いが、選手達の努力を水の泡にしてしまうため、全員真剣にタイムを計りました。大きな失敗もなく仕事を行うことができたため、良かったです。

しかし、僕達が大きな失敗も無く仕事を行うことができたのは、指示をしてくださった役員さん達のおかげです。

わかりやすく指示をしていただいたり、ボランティアの僕達にも優しく接してくれました。

また、競技終了後、緊張していた僕達に、大会参加者の障害者の方々は、笑顔で、「ありがとうございました」、「おつかれさまでした」と言葉をかけてくれました。

競技時の真剣な眼差しと、終わった時の清々しい笑顔。

見ていた僕達まで、清々しい気持ちになりました。

「ありがとうございました」、「おつかれさまでした」と、僕達も言葉を返させていただきました。

滅多にない、障害者の方々と触れ合う機会を、今回の体験でいただきました。

僕達のこれからのボランティア活動、そして社会福祉士として実習に参加する際に、今回の活動の反省、そして経験を活かしていきたいです。

最後に、役員の方々、そして参加した選手の方々と、その関係者の方々。

貴重な経験をありがとうございました。おつかれさまでした。

今回のボランティアのゆうあいピックは、障がいを持つ人との初めての関わりでした。

そこで、感じたことは、

どんなに障がいを抱えていても、スポーツ選手なんだなということです。障がいを持っていても、きちんとルールを守り、正々堂々と競技をしていたところを見て、そう思いました。

多分、選手になるために、たくさんの苦労や、挫折、3月にあった地震で練習に支障をきたしたり、精神的なショックもあったと思われませんが、こうして、競技を頑張っている姿をみて感動しました。

常任支援員 社会福祉学科1年 近藤大樹